

令和4年度5月30日付【水道産業新聞】

関東支部 全体協議会後に記念式典を開催

＜設立50周年 蓄積した経験と知識をもとに＞ 就業環境改善や技術力の向上を

設立50周年 蓄積した経験と知識をもとに

水コ協 就業環境改善や技術力の向上を



50周年を祝う（左から）間山前支部長、花木教授、村上会長、清水元支部長、菅元支部長、原新支部長

全体協議会後に記念式典を開催
全国上下水道コンサルタント協会関東支部は18日、都内で第12回通常全体協議会を開いた。決議事項は、2021年度決算報告・検査報告と、任期満了に伴う役員選任について。報告事項は、

21年度事業と22年度事業計画・予算について。間山一典・日本水工社長に代わる新支部長には菅原一孝・日本水工設計東京支社長が選ばれた。議事の終了後には、表彰式に続き、今年10月の関東支部設立50周年を祝う記念式典が催された。来賓の村上雅亮・水コ

ン協会長（NJ S社長）や歴代支部長が祝辞を述べ、花木啓祐・東洋大学教授による授けによる記念講演が行われた。2021年度事業では、新型コロナウイルスの就業環境改善や技術力の向上、健

ナウイルス感染症の影響で、現場技術研修など行事の中止が相次いだ。事業体に対する「要望と提案活動」は訪問と郵送で実施し、若手研修会はオンラインで従来通りのワークショップを開き、コンプライアンス勉強会や技術士試験対策講習会、技術講習会やウェビナーを活用するなど、各委員会とも工夫しながら、感染症対策と協会活動の両立をさらに前進させた。

また、会員各社においては、テレワークやDXなどによる働き方改革が一層進んだ。災害時支援では、新たに神奈川県大和市との協定が結ばれた。2022年度事業では、基本方針として、引き続き発注者に対し、コンサルタントの就業環境改善や技術力の向上、健

会を発展に向けた施策の実施や、業務の品質確保と向上に向けた配慮について要望し、あわせて円滑な災害時対応の実現に向けた環境整備を求めていく。コンサルタントの生命線となる「人材」については、各委員会が連携し、技術講習会や研修会などを通じて、時代の変化に対応し、発注者の多様な要望に応える秀でたコンサルタントを育成する。また、職業や働き方の魅力をこれまで以上に知ってもらえるよう発信力を高め、時代を担う優れた人材の確保に取り組む。

関東支部は、今年10月で設立50周年を迎える。記念式典では、菅原新支部長が「50年の間に蓄積した経験と知識をもとに、さらなる技術力と人的資源の向上を図り、次

なる10年、さらには100周年を目指し進化していく」と意気込みを述べた。来賓を代表し、村上会長は「50年を経て、建設の時代からマネジメントの時代に入り、新しい課題が次々に生じる中で、私たちがしっかりと自治体や地方を支えていかなければならない。関東支部が水コ協の先導役となつて活躍していただくことを心から期待している」と祝辞を述べた。

第4代支部長を務めた清水慧・日本コ名譽顧問は、「自治体の技術職員が減る中で、予算執行の最上流部にあり、上下水道の普及拡大に尽力してきた水ココンサルタントには、事業全般にあつての新たな役割が求められている。今後とも市民の安全安心を支えていただけるよう折念して

る」と励ました。第6代支部長の野村喜一・日本水コ協会長は、「関東支部では、色々な方々と話すことができ、そこで得た知識や学んだことが、後に会長職を務める上での基盤となった。本部の活動が活発であることよつて本部の活動も活発になると私は思う。関東支部がますます発展し、今後も本部を支えていくことを望んでいる」と期待を寄せた。

第7代支部長の菅伸彦・オリシナル設計社長は、「関東支部長を6年間務めさせていただき、在任中は、要望と提案活動や下水道事業座談会を通じて、品確法改正や働き方改革についても発注者側と意見を交換し、働き手にとつて魅力ある業界へのイメージチェンジ

の足掛かりに、微力でも貢献できたのではないかと思う。水ココンサルタントが、社会的認知が高くて尊敬される、将来なりたい、憧れの職業となる日を夢見て、今後も社業並びに水コ協の活動に関わっていきたく」と抱負を述べた。花木教授は、「脱炭素への変革期の下水道」と題し、自身が委員長を務めた国土交通省下水道政策研究委員会「脱炭素社会への貢献のあり方検討小委員会」が今年3月に取りまとめた報告を話題に講演した。「グリーンイノベーション下水道」の実現に向け、下水道のポテンシャルを最大活用することに加え、地域内外や他分野との連携を拡大・徹底し、広い視点で総合的な施策を考える必要があるとした。